

令和6年度 第1回白山市ミライ会議【概要】

日 時 令和6年5月18日(土)10:00~11:00

場 所 福祉ふれあいセンター 2階大会議室

テーマ 【子育て】地域における子育て支援

出席者 9人〔主任児童委員、市ファミリーサポートセンター協力会員〕



◆希薄になった学校と地域とのつながり 学校、こども園等の連携強化を

(出席者①)

主任児童委員の役割は、民生児童委員と児童・子どもたちの橋渡しをすることであり、相談を受け関連機関を提案する役割を果たしています。具体的な活動として、新生児への図書カードの贈呈と地域での活動紹介などを行っています。市内全体を29人でカバーし、定期的に集まって、地域ごとに特徴がある取り組みや実情などの情報共有に努めています。コロナ禍を契機に学校とのつながりが希薄になったとの意見もあがっていて、学校、こども園、幼稚園などとの連携強化のための取り組みが必要だと考えています。

(市長)

コミュニティスクールは、学校内に地域の方と連携するための学校運営協議会を設置する取り組みであり、美川小学校と蕪城小学校が最初のモデル校となっています。今年度には全ての小中学校に導入予定で、地域の教育力を高め、地域との連携を深めるきっかけになってほしいと考えています。しかし、新型コロナウイルスの影響で、主任児童委員さんだけでなく見守り隊など地域団体との関わりが減少しています。学校と地域の連携はぜひお願いしたいところではありますが、学校側からの働きかけがなければ、積極的に関わることは難しいですね。

(出席者①)

私は地元の学校運営協議会に所属しており、主任児童委員と学校に関わる団体と兼任しているため、学校に出向く機会も多いです。そういったことがない限りはほとんど行く機会も会話する機会もないため、難しいのではないかと思います。

(出席者②)

私は、ファミリーサポートの協力会員以外に、北陽小の学校運営協議会でコーディネーターを務めています。今年から始まって、美川や蕪城の例を参考に、ボランティアを募集しています

が、自分が住む松任地区は地域が広いため、松任コミュニティセンターに属しながら北陽小学校が担当で、町内の集会所に属する意識が強く、難しさを感じています。話を持っていく相手に迷っていましたが、先ほどの話から、主任児童委員さんという選択肢が増えました。

(出席者①)

自分は主任児童委員と兼任でコーディネーターをしています。モデル校の話を聞きながら、自分にはできるだろうかと不安でしたが、自分のできる範囲でボランティアを探しています。例えば、低学年の授業で花植えを行う際に、先生方から農業や庭仕事に詳しい方を紹介してほしいという要望があり、周囲で畑をしている人を探しましたが、人を紹介することの難しさを感じました。初対面の場合は、最初にとっても勇気がいります。そう考えると、地域のコミュニティセンターなどを通じて、つながっていくしかないのではないかと感じます。

◆公園や病院などの情報共有と助け合える関係づくり

(出席者③)

乳幼児ファミリーサポートとして乳幼児のサポートをしています。病院や公園の場所が分からないという相談が多く、主任児童委員さんに話をつなげられたらいいと思うことが多々あります。砂場や滑り台などがある小さな公園などの情報を共有できるコミュニティがあればいいなと思います。

(出席者①)

主任児童委員としても分からないことがたくさんあり、即答は難しいけれど、いいことだと思います。

(市長)

北陽小学校は一つの学校の中に、松任・旭・郷の3つの公民館区がある特異な状態で、コミュニティスクールとしての運営がやりにくい面があると思います。学校を中心にやりやすい範囲でやってもらえないと思います。

能登半島地震では、輪島市西保地区の皆さんが白山市に集団で避難してこられ、避難生活において地区の公民館の館長や町内会長がまとめ役を担うなど、コミュニティの大切さを再認識しました。先ほどの話にあった花を植える授業の補助や、特に子育てにおいて、人々がつながり、助け合える状態は大事であり、日頃からのコミュニティでの交流が、相談をしやすいつながりを育むことにつながると思います。コーディネーターも一人で全てを行うのは困難です。いろいろな人に頼れる環境を作りたいですね。

(出席者③)

金沢に元々住んでいた人に話を聞くと、白山市内のことが分からず、公園などは金沢に行っているそうです。もし分かれば、近所のほうに行きたいと思っていると伺いました。

(出席者④)

光野地区の学校運営協議会で活動しています。光野の包括支援センターで、お年寄り向けに地域マップを作成していました。旭、蕪城、中奥の地区マップがあって、コミュニティセンターやスーパー、病院などの情報が共有できるマップは、子ども向けにもあればいいと思います。

(市長)

生まれ育った場所で子育てしている人はもちろん、妊娠・出産を機に、新しい場所で生活を始める人にとっても、病院や周辺情報を知らないことは不安ですね。

(広報広聴課長)

市では「子育て便利帳」という冊子を作成しており、その中には子育てマップといって、松任地域など大きい範囲で公共施設や保育園・児童センターなどの児童施設については掲載されています。しかし、今の話を聞くともう少し身近な範囲のものが要ということですね。

(出席者⑤)

鳥越地域ではその冊子を活用していますが、地域ごとに違うものを活用しているようです。

(出席者①)

鶴来地域では、こども園やこどもの広場などの簡単な地図と、主なイベントをまとめた「ひろばだより」を3か月に1度ほど発行して、児童館に置くなどしています。また、先ほど話したようにお母さんの家に訪問する際にも配っています。

(市長)

新生児訪問は、市全体で行われているんですね。

(出席者①)

基本、全地区で行っています。図書カードの配布は、あくまで自分たち主任児童委員を知ってもらうための取り組みで、相談がある際に声をかけてもらうための挨拶として伺っています。

出産後すぐに働く予定の人から相談を受けて、近隣のこども園への入園が難しい場合、他の園を紹介したりもしています。最近も、鶴来の人ですぐの受け入れ対応ができないため、河内の保育所を紹介したりしました。

◆地域を超えた保育所・こども園等への入園 児童数減少と施設の存続

(出席者⑤)

保育園の入所に関連する話ですが、鳥越保育園の入所式に伺った時に、吉野谷の子どもたちが何人かいたので、理由を聞いたところ、同級生が少ない不安から鳥越を選んだようでした。他にも、尾口からの子どもや珠洲から避難されてきた人もいて、近場ではなく、子どもが集まる地区に集中しているようでした。吉野の保育所は人数が5～6人と少なく、行事などの運営も難しい状況で、存続自体が難しいのではないかと心配です。保育施設をなくすのは大変なこ

とかもしれませんが、保育士を他の施設に回すことでより良くなる部分もある気がします。市長はどう思いますか？

(市長)

保育所と同じ話題は、小学校でも出ています。子ども自体が全体的に減っている中で、活動が難しくはなっています。ただ、子どもの相談や地域性を考えると、地域ごとに学校があることが好ましいと思います。本質は人口増加が理想ではありますが。

地域性という意味では、地域の主任児童委員さんたちが地域の人として相談を受けていただいているのはとても有難く思います。規模の小さな施設の問題は、例えば、白峰の保育所の子どもたちを他の場所にというのは現実的ではないと思いますし、今後もし意見を聞きながら検討していきます。逆に、鶴来地域では子どもの数が増えている地区もあり、そういったところはこども園の増設など対応できるところから進めていきたい。

(出席者⑥)

こども園で働いていますが、園選びは場所だけでなく他の要因も鑑みて選んでいる風に感じますし、親同士の情報や口コミなどで決めているのだと思います。一方、病院の情報などは共有しづらい部分もあり、冊子などの膨大な情報量がある中で、読む人、読まない人で差が出ますし、情報格差が生じやすい気がします。

主任児童委員として訪問させていただいていますが、初対面の人に気軽に相談するのは難しいと思いますし、こども園の先生のほうが相談しやすいようにも思います。それぞれに良いノウハウがあるので、園や主任児童委員、ファミサポが連携できるように取り組んでいきたい。

◆ファミリーサポートセンター 保護者の要望に応える協力会員が不足

(出席者⑤)

確かに、主任児童委員として、ファミサポの名前は知っているけれど、詳しい活動内容については知らない部分が多いです。

(出席者②)

基本的には、サポーターとして登録して、例えば、保護者が子どもの習い事や学童などの送迎が難しい場合に、代わりに送迎をする、場合によっては保護者が帰ってくるまでその子どもを預かるなどの対応をしています。

現在は、保護者側の依頼会員は徐々に増えていますが、実際に保護者の要望に応える協力会員が足りていない状況です。協力会員を増やすために募集のための資料の配布などを行っていますがそれ以上のことはできていないため、先ほど話されていたように連携ができれば嬉しいです。

(市長)

市でも様々な取り組みを行っていますが、うまく連携できていない部分があります。全体で連携できるといいと思います。ファミサポの協力会員はぜひ増えてほしいと思いますが、難し

い状況ですか。

(出席者⑦)

会員同士の懇親会を行ったり、市の広報に募集記事を掲載したりしています。今回のミライ会議を含め、周知のためにいろいろと続けていきたい。

(出席者①)

ちなみに、現在会員は何人くらいいますか？

(出席者②)

令和 6 年の1月時点で、協力会員がだいたい 90 人、対して依頼会員 230 人ほどいるようです。

(出席者⑤)

利用料や報酬はどうなっているのですか？

(出席者③)

基本的には、1時間あたり 700 円の有償利用となっています。それだけ聞くとそこまでではないように聞こえますが、例えば夏休みに半日預かってもらうなどとなると結構な金額になります。保護者から相談いただいたけれども、金額を聞いてあきらめたということもありました。

(市長)

学童保育などの利用はできないのですか？

(出席者③)

学童は、夏休みの期間中のみ利用するということではできません。普段は半日働いて、家に帰ってきてから学校から帰ってきた子どもの面倒を見られるというご家庭でも、夏休みの期間中はどうしても半日子どものことを見るができないという場合が多いです。

(広報広聴課長)

ファミサポの利用料金について、住民税非課税世帯やひとり親家庭であれば、市で半額助成を行うような取り組みを行っていますが、共働きの世帯だと難しいですね。

(出席者①)

学童側も定員いっぱいのところが多く、長期の休みだけ追加で受け入れというのは困るというのは聞いたことがあります。児童が増えているところではやはり学童施設の増設などしていますが、それでもやはり定員ぎりぎりなところなども多いため、難しいです。

(健康福祉部長)

学童でも、夏休みの期間中だけ対応しているところもありますが、申し込んですぐに入れるというわけではなく事前の申し込みなど、ハードルが高い部分があるのが現状です。

(出席者③)

保護者の方の負担が多いことを受け、協力会員の中ではボランティアでやってもいいという意見の人もいます。行政でもなんとか力添えしてもらえないかと考えています。

(市長)

ファミリーサポートの協力会員が増える方法も含めて検討していきたいですね。

(広報広聴課長)

例えば、出席者の方はこういった経緯で協力会員になったのですか。

(出席者⑧)

もともとそういった活動に興味があったため、そうした情報を知ることができました。

先ほど連携の話がありましたが、自分の体験談なのですが、第2子目を妊娠されている方で、つわりがひどく悩んでいる人をサポートしたことがあります。その人は第1子を預けているこども園の先生からファミリーサポートの話を聞き、初めて存在を知ったそうなので、こども園の方のおかげでつながった形になりますね。

(市長)

そういう話を聞くと、やはり学校やこども園などの機関とのつながりや連携が今後必要になっていくと感じますね。主任児童委員さんの役割は重要なものですが、やはり会える回数が少ないと直接の相談する機会を作るのが難しいので、そういった場所から本当に困った人につながっていくことが大事に思います。

◆「こども食堂」の取り組みに地域の支援を

(出席者⑨)

湊地区で主任児童委員をしています。母がこども食堂をしています。以前はいくつかの地区で、ラジオ体操の後に開催すると大体 30～40 人ほどの子どもが食事を食べに参加しました。去年は範囲を広げ、湊町全域に声をかけたところ、お昼ごはんの時間に 100 人以上の子どもが参加してくれました。現在こども食堂の補助金は開催毎に一律で 15000 円となっています。100 人以上の人が参加した場合でも、さきほどの 30～40 人参加の場合と同じ金額しか支給されないため、なんとかならないかと感じています。野菜などは規格外品などを農家さんからいただいたりしているのですが、お肉などは最近の物価高騰もあり厳しい状況です。

(市長)

今年はこども食堂を行っている方々ともミライ会議を実施する予定なので、詳しく話を伺い

たいと思います。

地域交流という面では、コミュニティセンターを活用することも検討できそうですね。

(企画振興部長)

コミュニティセンター化で交付金の利用について地域の裁量が増えているので、対応はできると思います。

(市長)

こういった用途で使っていくかは地区によって異なると思いますが、そういった面も含めて考えていきたいです。

◆話し合いが生む横のつながり

(出席者⑤)

ミライ会議について、前年度までは各地区で行っていたように思いますが、今年度は今回のような形式に変更になったんですね。

(市長)

去年は 28 公民館区を回りましたが、今年は特に子育てを始めテーマを3つに絞り、その中でもさらに細かいテーマを決め、各回でそれを担当している関係者から話を聞く予定です。

(出席者⑤)

去年と今年も参加しましたが、今年はファミサポさんの話も聞けたのでとても有意義に参加できました。

(市長)

この会議ではお話しされたように横の連携も大きな目的としてありました。各関係者が集まり、私と懇談する中で横同士のつながりもできると思うので、今後の広がりもお願いしたいと思います。

今回、3つのテーマに分けて、その中でさらに細かく、こども食堂等具体的なテーマについて、いろんな角度から話を聞きたいと思っています。苦労話やご意見、提案を聞けたので、これからもできる範囲で考えていきたいです。

◆不登校の子どもへの対応

(出席者⑨)

最近、不登校などのお子さんが増えていると聞きます。その子たちへの対応などは今後どうなっていくですか。

(市長)

自分が教員をしていたころは、主任児童委員の方と連絡を取り合い、学校に行けていない子

へのアプローチをお願いすることもありましたが、現在は個人情報問題もあり難しいと感じます。

学校にいけない子に対しては、例えば学校内にフリースクールのような場所を作り、手が空いている教員や市で雇用した指導員のもと自主学習という形で学習を行う、市内にある教育センターに子どもたちが通える場所を作り、そこへ通ったことを出席数として数えることができるような仕組みを作る、または、オンラインの環境を整え、学校の別室や教育センターで学校の授業にオンライン参加できるように今取り組んでいます。

また、学校に行くのがつらい、精神的に落ち込んでいる子どもたちに対しては、体験学習として、ジオパークを活用した遠足のようなものや、モノづくり、調理実習などを行い、生きる力を養えるように対応しています。

今回、ミライ会議で「不登校」もテーマとして取り扱います。団体の方や専門的に取り組んでいる方に参加してもらい、意見を聞いていく予定です。

近年、コロナが始まってから学校に行きづらいという子が増えたと思います。教育機会均等法という法律も最近できましたし、学校に行けなくてもそれに類似した学習をすることで出席日数などが確保できるようになってきています。鳥越の方でもワンネススクールなどでの学習を出席扱いにし、いろんな形で子どもに有益になるようにできる仕組みを作っています。小・中学校を教育センターなどで過ごし、通信制や全日制の高校に行った人もたくさんいます。今後もそういった形で子どもが選択できる力をつけさせてあげたいと考えています。

本当はそういった部分で主任児童委員さんとも連携ができればよいなと考えています。

(出席者①)

コロナ以前は、主任児童委員だけでなく民生委員も交えて、学校を回って先生方に実態を聞いたりしていたのですが、全部コロナでストップしてしまいました。学校側から不登校になっている生徒のことを聞ければ、例えば民生委員さんが地域の見回りをする際に、見かけることがあれば挨拶をしたりすることで、子ども側としてもちゃんと見てもらえているという実感を持てるため、安心できるはずだという校長先生もいたため、ぜひそういうつながりを再び作っていきたいと思っています。

(市長)

とても良いと思います。教育委員会や校長先生と話していきたいですね。

学校の先生方では不登校の子だけを対応することは難しいと思います。民生委員さんは地域のことをよく見ていて、いつも見かける子がいないなど、気づける部分もあると思います。貴重なご意見ありがとうございます。